

簾戸

有限
会社
高橋
建具
製作
所



簾戸（すだ）は、木枠に萩や葎などで編んだ簾（すだれ）をはめこんだ建具で「夏障子」や「葎戸（よしど）」とも呼ばれます。

障子から簾戸に変わると同じ部屋とは思えない程、雰囲気が一変します。夏の強い日射しを遮り、室内はほのかに暗くなり風がゆるやかに吹き抜け、まるで竹林にいるようです。

「簾戸をたてると、夏をむかえる準備ができたと清々しい気持ちになります。」撮影をさせて頂いたご主人の言葉です。

簾戸は夏の暑さと上手に付き合う知恵と日本人ならではの情緒を感じます。

最近では、現代の暮らしにあった新しい表情の簾戸も生まれています。

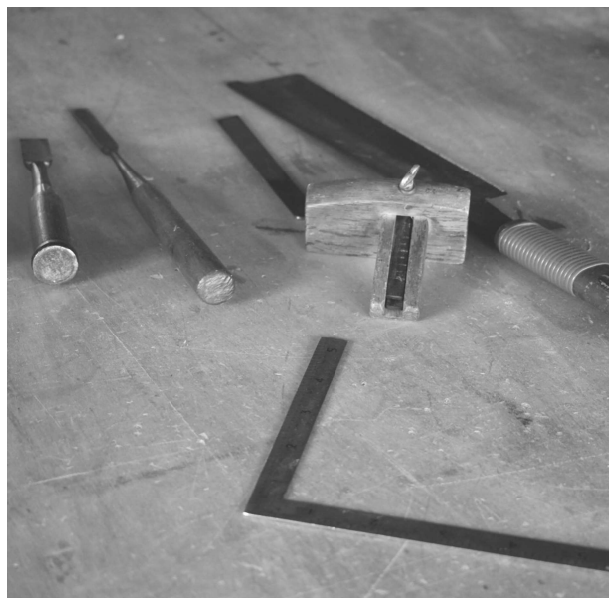
そんな古くて新しい建具「簾戸」をご紹介します。ごゆっくりご覧下さい。

(有)高橋建具製作所 代表 高橋孝一

いも
庭も
動き入る
や

夏
簾
敷

芭蕉
✕



【簾戸デザインについて】

簾戸は夏の建具ということで遊び心のある大胆なものもあり、建具の本には多様なデザインの簾戸があります。その中でも、昔からあるもの、現代の暮らしで使いやすい簾戸を「定番デザイン」としてご紹介します。カタログ掲載以外の簾戸もご要望に応じ、色々作っています。簾戸の新しい可能性が広がり、作り手としても勉強になります。ご希望がございましたらお気軽にお聞かせ下さい。

【高橋建具製作所これまでのあゆみ】



昭和36年
創業

北越後の城下町、新発田にて茶室や数寄屋造りを得意とする大工の元、建具を作る日々。



平成16年
新聞掲載

簾戸新聞掲載により全国のお客様と交流。ご要望に応じている中、新たな簾戸が生まれる。設計事務所との仕事も始まる。



令和5年

北は山形、南は奄美大島まで、300件以上簾戸を納品。これからはメンテナンスにも力を入れたい。

簾戸カタログ目次

- ・ 簾戸定番デザイン（二〇七）
 - ・ 簾戸に使う材料
 - ・ 簾戸のある暮らし
 - ・ 簾戸ができるまで
 - ・ 会社概要
- 別紙
- ・ お届けまで
 - ・ Q & A
 - ・ 価格一覧
 - ・ 採寸資料



1-1 焼きひご使用例

日々の暮らしを
快適に気持ちよく

渋い色味が涼しげな黒竹入りです。

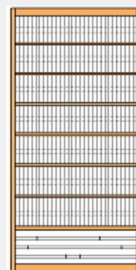
簾戸は高級品のイメージがあるかもしれませんが、「普段使うリビングや茶の間で気持ち良くすごして欲しい。」という想いよりお手頃な価格からご用意しています。



黒竹



1-2 萩使用例



1-1



1-2



1-3

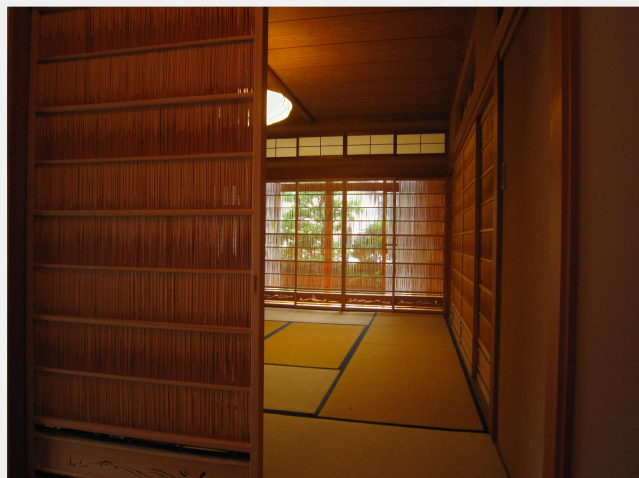
1-1：横棧のみ
和室はもちろん洋間にもよく合います

1-2：格子入り
古民家調のお宅や旅館、お寺に好まれます

1-3：上下黒竹入り。
解放感があるので、間口の狭い所におすすめ

一、黒竹（くろちく）入り

定番デザイン



2-2 近江葎使用例

夏らしく一番人気の簾戸

水音が聞こえてきそうな透かし彫りの入った簾戸。

波に遊ぶ千鳥は中段
清流を泳ぐ鮎は下段に。
それぞれ四枚柄違いです

透かし彫りは夏の光が当たるとさらに
風情があります。



2-1 焼きひご使用例



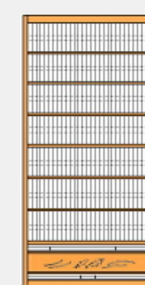
千鳥



鮎



2-1
千鳥



2-2
鮎

二、千鳥（ちどり）・鮎（あゆ）透かし彫入り

定番デザイン

三、杉板入り



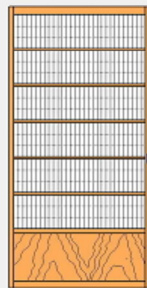
3-3 萩使用例

無垢の一枚板を手鉋で仕上げます

秋田杉の無垢の一枚板を、職人が手鉋で、艶のある板に仕上げます。人の手で削った板は、年月が経つほど光沢が出てきます。



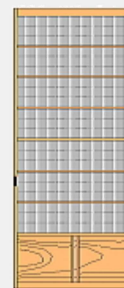
3-1 天津葎使用例



3-1



3-2



3-3

3-1：杢目（木目の向き縦）

3-2：格子入り（木目の向き縦）
裏表紙写真の簾戸

3-3：杢目（木目の向き横）
舞良（まいら）押さえ

四、井桁（いげた）手彫り透かし入り



4 萩使用例
透かし彫り
撫子（なでしこ）



4

井桁細工に、彫り師による
手彫りの透かし、職人の技
術がつまった簾戸です

透かし彫りの柄は、夏の定番「竹に雀」
「柳にツバメ」「藤の花」「朝顔に蝸牛」
「翡翠（かわせみ）」等。
お茶室には「壺々（つぼつぼ）」が好まれます。

家紋を入れるお客様も多いです。
故郷、柏崎の海辺の風景を彫ったお客様もいらっ
しゃいます。お気軽にご相談下さい。

定番デザイン

五、簾（すだれ）のみ



5-1 御形使用例

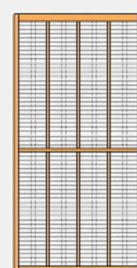
シンプルにすだれのみ
すだれの素材感が引き立ちます



5-1



5-2



5-3

5-1：横棧のみ

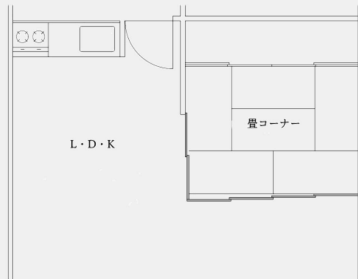
木枠部分を細くし、すだれを萩や天津葎にすると茶室にも品よく納まります

5-2：格子。和洋合います

5-3：縦棧に横1本

和の雰囲気です料亭にも好まれます

六、杉板スリット入り



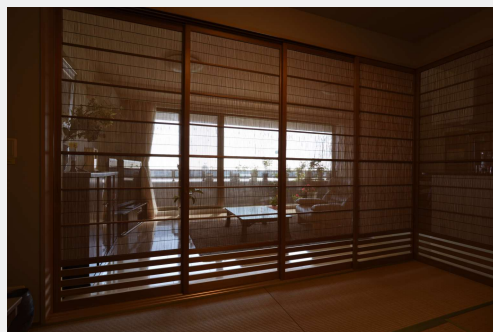
マンションの畳コーナーの襖を簾戸に取替え

襖を閉め切ると圧迫感があしかったです。りましたが、簾戸に替えて解放感が出ました。

季節を問わず年中使いたいとのご要望より、落ち着いた色の焼きヒゴにしました。



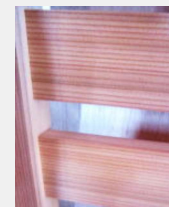
1-1 焼きヒゴ使用例



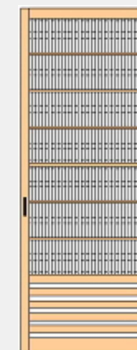
畳コーナーより

杉の柃目板が軽快なリズム

木目の詰んだ美しい杉の柃目板を少し間隔をあけて入れています。



杉柃目板

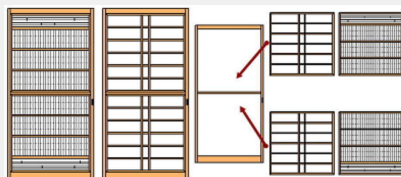




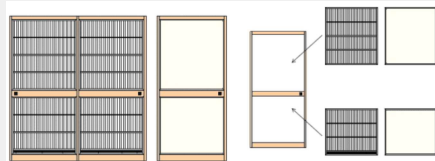
襖兼用簾戸の取り替えをしているところ



襖兼用簾戸の『簾戸パネル』



7-1 障子兼用簾戸



7-2 襖兼用簾戸



7-1 天津葎使用例

日本の知恵

取替え、収納が楽です

建具はたてたまま、中の障子パネルと簾戸パネルを取り替えて交換します。昔からある方法ですが、収納場所が少なくなった現代において、人気の簾戸です。



障子に替えたところ

七・① 障子兼用簾戸
七・② 襖兼用簾戸



7-2 天津葎使用例



襖兼用簾戸も出来ました

お茶の教室をなさっているお客様より、
「襖兼用は作れますか。」とのご要望
があり出来ました。納戸がお道具で
一杯でしたが、取り替えパネルであれば
収納でき、持ち運びも楽との事です。



襖（鳥の子紙）に替えたところ

湖や山で大事に受け継がれてきた自然の恵

簾戸に使う材料

簾戸に使うすだれは、川辺や湖で長年大事に育てられたものを使わせてもらっています。自然のものなので、気候や環境の影響を受け、作業も大変だと聞いています。

また、木枠に使う杉も山で約百年から三百年育ったもの。こちらもやはり人の手がかかっており、大事に使っていききたいと思っています。

まさに、自然の恵という言葉の通り、素材そのものが心地よく、奥深さがあります。



近江 葎

右写真の「バラ節」と、鮎透かし彫りページ左写真の「節合わせ」があります。バラ節は、「緋のようにさりげなく、、、」と表現され茶室に好まれます。色の違いを楽しむ節合わせは、赤や薄茶ではなく、「緋色（ひいろ）や「枇杷色（びわいろ）」と呼び、日本人の繊細さを感じます。また、外に掛ける下げすだれには皮つきの葎もあり、侘びた雰囲気があります。長い歴史の中で培われた葎を愛で、楽しむ感覚は素晴らしく大事に受け継いでいきたいと思います。

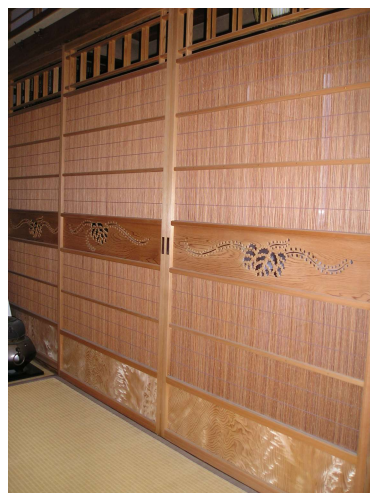


萩

左写真の萩の簾戸は、弊社社長が20代の頃作ったもので約50年前の簾戸です。表具屋さんの自宅にあり、イベントがあるとお借りして展示させてもらうのですが、毎回一番人気があります。時を経て萩が何ともいえない良い色になっており迫力さを感じます。

木枠や腰板も艶がでて良くなり、この簾戸を見ると、昔の人は長年使うと良くなる素材や製法をよく知っているなど痛感します。

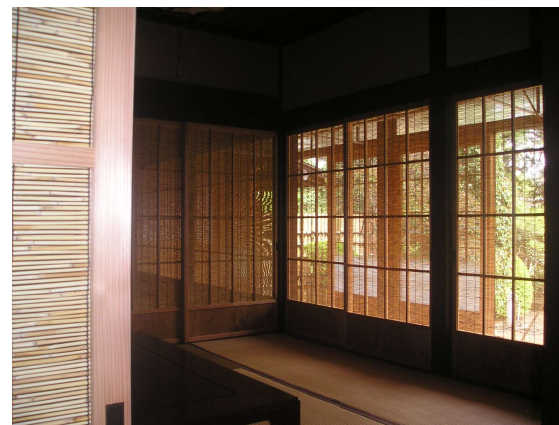
（新品の萩はもう少し薄い色です）





御形

左写真は、五、簾（すだれ）のみのページの簾戸を開けたところです和室の古い簾筒とゴギョウが良く合っています。
ゴギョウは太く、遠目が映えるので軒先の下げすだれとしても使われます。



天津葎

近江葎より細く、粒が揃っており上品な印象です。
左写真は、1 ページ目の簾戸取り換えのお宅です。二間続きの和室と縁側の間にぐるり簾戸が建ち、爽快でとても気持ちが良いです。

建具 ショウルーム あります

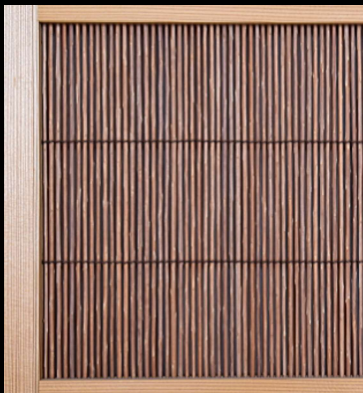
工場二階が、事務所兼建具ショウルームです。簾戸や襖、障子などを展示しています。すだれは、竹ヒゴや山ヨシなど他の素材もあります。写真では伝わりにくい面もありますので、ぜひ実物をご覧ください。
倉庫には、材木も沢山あります。弊社社長が、一緒お好みの木をお選びします。
どうぞ、お気軽にお越し下さい。



焼きヒゴ

マンションのリビングと和室の間の3枚引きに簾戸をお使い頂いた事例です。夏季は奥の袖壁に障子を引き込み、シーズンが終わると障子に戻します。焼きヒゴは合わせやすく人気があります。

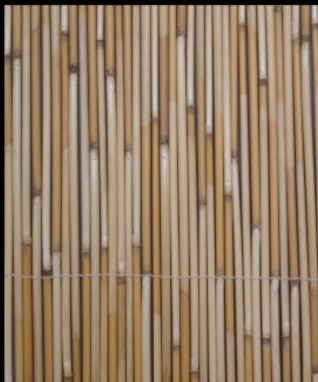
すだれ



【萩（はぎ）】

良瀬川流域で簾戸用に丹念に育てられた最上級の本萩のみ使用しております。仕上がりの美しさは圧巻です。

一本一本、細い穴にいれて熱を加えることでまっすぐになり、この渋い赤茶の色になります。気の遠くなるような手間をかけてこのなんとも言えない美しさが完成します。
現在生産量が少なく、とても希少な素材です。



【近江葎（おうみよし）】

琵琶湖でとれる最上級品です。

天然のもので少し曲がりがあり、そこから光がもれて美しい影ができます。それを雨に見立てて涼を感じるとも言われています。

右は『バラ節』茶室に好まれて使われます。

左は『節合わせ』色の濃い所を合わせた贅沢な使い方です。

年月が経つときれいな飴色になり魅力が増します。
近江葎も量が少なく、大変貴重です。



【御形（ごぎょうじょう）】

御形は、太く、節が大きくゴツゴツしています。
アンティークのインテリアとよく合います。
梁表しの古民家など大きな空間にも好まれます。



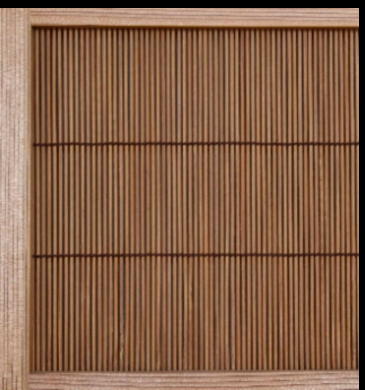
【天津葎（てんしんよし）】

すだれの本場・中国天津の葎。写真ではわかりづらいのですが、廉価なすだれとは違い、色・艶・硬さとも高品質なお座敷用特注品です。夏らしく見るからに涼しげです。



【焼きヒゴ】

竹を細くさいたヒゴを焼いて色をつけたものです。織細で品があり、和室はもちろん、マンション等の洋間にも良く合います。また、漆喰などの白い壁との相性も良く、しっくり納まります。色味が落ち着いているので、一年中簾戸をお使いの方には、焼きヒゴや御形がおすすめです。



木柵



【秋田杉】

言わずと知れた杉の王様。樹齢三百年の目のつんだ素晴らしい杉です。時が経つと、淡いピンク色に変化して、とてもきれいです。



【新潟杉上物】

新潟の山で、長い間、大事に育てられた貴重な上物の杉。遠目に映える一分の木目が玄人好みで、杉の良さを満喫できます。



【新潟杉】

素直な木目です。人肌のように優しく癒されます。目が荒いですが木取りを上手くすると良い建具に仕上がります。

ヒノキ・タモも承ります。その他樹種もご希望がございましたらご相談下さい。

お客様を訪ね、お話を聞かせてもらいました

簾戸のある暮らし

小林様（横浜市）

出会いは新聞の記事

「クーラーが苦手なので、夏になり暑くなったら障子を外してしまおうと思っていましたが、それでは恰好がつかない。簾戸がいいなとは思っていたが、作っているところを知らなくて、。新聞の記事で偶然出会えてラッキーでした。」とお話して下さいしたのは横浜の小林さんご夫婦。

平成十六年六月、朝日新聞「くらしの良品探訪（遠藤ケイ氏・著）」に弊社の簾戸を取り上げて頂き、それから地元新潟以外の地域にも納めさせてもらうようになりました。

すっきりと片付けられた部屋には奥様の作品である『書』や『植物画』が飾られており、簾戸越しには大きな桜の木が美しい緑の葉を沢山つけていました。

簾戸は三拍子そろっている

「一つは機能。玄関に誰が来たかわかる。昼間、外から中は見えないが部屋からは外の様子がわかる。電気に頼らないで、風を確保出来るのも良い。」

「二つ目は、居心地が良い。季節感、解放感。」

曖昧さが心地良い

「三つ目は、簾戸をつけると心が快適で健康になる。白でもない黒でもない。縁側のように、外でも中でもない。隣の部屋の声は聞こえるけど、聞いていないことにする。そんな曖昧な日本人ならではの感覚が心地よい。簾戸は、人と人、自然と家とを『いい加減』に調整しますね。」

簾戸の三拍子本当にそうだと思えます。お話ありがとうございました。



リビングに簾戸を使って頂いているところ
3-3 杉板入り 竹ヒゴ使用



興津様（横浜市）

若い時は夏の一つの風景として簾戸を見ていました

リフォームの際に簾戸を取り入れて下さった興津さんにもお話を伺いました。

ご実家で簾戸をお使いになつていた奥様より、「若い時は、夏の一つの風景として簾戸を自然に見ていました。家を建てる時、それが脳裏にあり簾戸を入れたいと思ひました。その時は入手先がわからず諦めました。改築する時、高橋建具さんの事を知り長年の想いが叶いました。」

「義理の父親から知らないうちに日本の伝統を教えられていたのですね。」とご主人様。

暑いさなかに一瞬吹き抜ける涼しい風

「密閉された空間でエアコンをつけていたのでは決して感じることでできない暑いさなかに一瞬吹き抜ける涼しい風。風の通り道が用意されてこそその束の間の至福。一期一会の風！」「緑を伝ってくる風は、自然で季節感があります。簾戸はエアコンのようなモーター音がなく、しのびやかに『涼』を演出してくれるのも良いですね。」

百年後に想いをさせています

「この簾戸が息子たちに代々、物を大事にするという気持ちと共に受け継がれていく。そんな百年後に想いをさせています。」

「使い捨てのものが増えてきましたが、古い物に手を入れながら暮らすのは気持ちがな和みますね。」とも。

簾戸のデザインを何度も検討した事を思い出しました。良く吟味して、大切に使う。興津さんのライフスタイルをお手本にしたいと思いました。



府中様（新発田市）

毎年、新鮮な気持ちになります

二十年以上、簾戸をお使いの府中さん。和室に炬を切ってお茶のお稽古をなさっています。

「簾戸を入れて随分経ちますが、六月になり障子から簾戸に変える

と、毎年、やっぱり簾戸は良いと新鮮な気持ちになります。生徒さん達も、簾戸が入ると喜んでくれますよ。」

毎年六月と十月に建具替えにおじやまさせてもらっています。長年の「愛顧ありがとうございます。」



手間をかけて職人がつくります

簾戸ができるまで

*すだれ店の作業

すだれは、新潟と関西のすだれ屋さんにお問い合わせします。写真は新潟古町の新通店すだれ屋さんの田中さんです。新潟市はかつて湊町として貿易・交通の要所として栄え、繁華街である古町は京都と並び称されるほど全国屈指の賑わいを見せ、すだれ屋さんも沢山あったそうです。

現在は田中さん一件になりました。こちらで編むすだれは絶品です。何百本の大きな束で仕入れたものを1本1本確認して、虫食いや変色したものを除き、それから太さと色の似たものを分けます。編む際も、糸を均一に巻くことから始まります。そして糸の下についている重りでひっぱる力を均一にし、でこぼこのないきれいな網目に仕上げます。

近江葎は関西のすだれ屋さんです。貴重な葎を分けて頂き、また、琵琶湖の事、滋賀や京都の文化、茶室の事など、簾戸を通して教わった事は会社の大事な宝です。

*建具店の作業

① 材木の 買い付け

材木屋さんで主に杉を買います。新潟の湿気のある雪と土により、粘りのある良質な杉になると言われています。

② 木取り

材木の持つ美しき、力を最大限出すには・・・と考えながら木取りをしていきます。この木取りで建具の出来が決まると言っても過言ではありません。一件のお宅の建具は同じ丸太の杉から木取りをします。年月が経つても同じ色になり段々良くなっています。



③ 削り

写真の万能機という機械で、直角を出し、厚さをそろえます。削りの作業の時は、工場中が杉の良い香りで満たされます。



万能機で直角を出しているところ

④ 墨付け加工

墨付けをします。鉛筆ではなく白引きや毛引きという先のとがったもので印をつけます。木の繊維を切断するので、きれいな仕上がりになります。印にそって加工します。機械で大まかにとり、ノミできれいに仕上げます。その後、たつぷりの水で拭いて木を膨らませます。小さな傷が消え、長く使ってもささくれない、艶のある建具になります。



穴彫機械



白引き



ノミで仕上げ

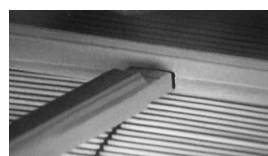
⑤

組み立て すだれ張り

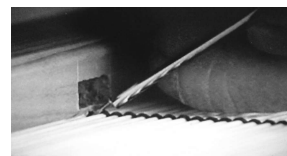
最後に組み立て。それぞれの部材が形になっていき楽しい作業です。すだれ張りは、小釘をポンチでとめます。すだれがピンと張るように丁寧に作業します。すだれを張り終えたら、棧を差し込んで真鍮や銅の丸頭の釘でとめます。糊で固めないので、すだれの張り替えができます。



組み立て



棧を差し込む



すだれ張り

会社概要

創業…昭和三六年

所在地…新潟県新発田市小舟町一丁目15・5

代表…高橋孝一 従業員…五名

品目…障子・襖・格子戸・簾戸・茶室建具

営業範囲…新潟・埼玉・東京・神奈川

(簾戸は全国対応)



有限会社 高橋建具製作所電話：

〒957-0007 新潟県新発田市小舟町1-15-5 電話：0254-22-6450 FAX：0254-22-7096

メール：info@kimajime.co.jp ホームページ：<http://www.kimajime.co.jp>